ぐりーん
（児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援）

2022年度　行動計画

2022年度　事業所収益目標

２９，４００，０００円

ＰＤＣＡサイクルの質の向上

◇毎回の支援の振り返り
　→児童発達支援は支援後、
　部活動・学習支援は当日では勤務時間に差があるため翌日に行う
（計画に沿った支援が出来ているか、その結果どうだったか確認）

◇必要に応じて氷山モデルや行動分析を行い支援の見直し

◇アセスメントツールの整理
（自閉症特性シートや情報理解・基本のアセスメント等）
誰でも確認できるものと日々の記録を活用し個別支援計画を作成

部活動

大人になり働く姿を見据えて1人１人の自立に向けた支援

◇学校へのお迎えを車→バス来所に変更（５月中旬～予定）

◇休日の利用時も自力で来られるようにサポート
（必要な利用児に随時行う）

◇自立課題を実施し自分で始めて終われる課題を設定
→スタッフがアセスメントをとり、どうすれば一人で進められるのか（提示方法や集中して取り組める内容）方法をみつける

◇様々な経験を通して生活・選択の幅を広げる

体験的宿泊の実施（年3回）
行事への参加・必要な情報の発信
→メール配信や玄関にお知らせ掲示

〇美術部（火曜日）
書く切る貼る等、一人で出来る作業を積み重ねて作品を作り、達成感を味わえる場面を作る
（個展を行う・絵画集の作成）
・色んな素材を使ってデザインすることで興味の幅を広げる

〇運動部（水曜日）
体づくり（ランニング・サーキット等）を中心に行う
月に１回ニュースポーツを実施しみんなで１つのスポーツを行う

〇音楽部（木曜日）
うた・楽器・ダンス等それぞれが好きな形で音を楽しむ
みんなで表現する楽しさを味わう

〇家庭菜園部（土曜日）
・買い物、調理等、ひとりでできることを行う
・自分たちで行いたい活動を話して決める

〇レクリエーション部（月１回、日曜日）
・年間の活動日を先に決めて伝えておくことで利用者を増やす
・季節を感じる企画と自分たちで考えて活動を決める機会の設定

学習支援

学習支援のニーズの高まり

火（小学生中心）5名

木（中学生中心）2名

金（小学生）　　8名

土（中・高校生）6名+（3名～9月）

最大に支援枠を増やして実施

高校生3名、9月末で終了予定⇒支援枠の空きにはならない

フォーマルアセスメントの実施

◇WISCーIV

◇KABC－ II

◇DNーCAS

◇LCSA

◇S-M社会能力検査

WISCは医療機関等で実施済みのケースが多い

⇒学習ニーズ把握のために、KABC- II の受検提案、実施

インフォーマルアセスメントの実施

◇初回面談時のアセスメントプログラム

・感覚統合簡易アセスメント（オリジナル）

・読み書き簡易アセスメント

⇒アセスメント結果を**学習支援ニーズ整理シート**で点数化

⇒大まかな支援の方向性を支援計画に反映

私たちが見る視点

◇各感覚の発達、感覚の統合レベル（概ね小学生まで）

◇目と手の協応

◇学習意欲、モチベーションの維持

◇学校、家庭等の環境要因へのアプローチ

月　　日　（　　）　　No.

対象児童名（　　）　　観察者名（　　）

項目	評価	備考
ペットボトル　蓋開け	１・２・３・４・５	
ペットボトル　嘔吐反射	有　・　無	
ペットボトル　蓋閉め	１・２・３・４・５	
追視	１・２・３・４・５	
注視	１・２・３・４・５	
利き手	右・左・未確定	
非利き手	右・左・未確定	
利き目	右・左・未確定	
利き足	右・左・未確定	
非利き足	右・左・未確定	
座位	１・２・３・４・５	
片足立ち	１・２・３・４・５	
短期記憶	１・２・３・４・５	
腹臥位	１・２・３・４・５	
側臥位	１・２・３・４・５	

認知傾向		同時処理
		継次処理

氏名　　様　　入力日　　年　　月　　日

	1	2	3	評価	支援時に気をつける点
衝動性	問題なし	傾向あり	傾向高い	2	基本の設定：パーテーション等で刺激の統制をし、時間を区切りながら課題に取り組む。プリント課題等は注目する問題だけに集中できるようガイドの使用や1枚の中の問題数を減らす
過敏性				2	過敏の内容に応じた配慮。基本の設定：音⇒イヤーマフやスペース分け 光⇒机の配置の工夫　感触⇒椅子や机の材質を配慮
不器用（粗大）	問題なし	体感の弱さあり	着座時、過度の前傾・反返り	2	着座課題前に体を動かす取り組み。体幹トレーニング等の実施
不器用（微細）		三指可動不安定	筆記具使用困難	2	手指を使った遊び、洗濯ばさみ、クリップ等、ツールを使った課題設定やグリップ、二指を止めるツールを使用して調整
利き手	右手	左手	利手・非利手未確定	2	筆記の際の見本やテキスト位置、文字配置の工夫
眼球運動	問題なし	得手・不得手有	視点移動困難	2	ビジョントレーニングの実施。座位で難しい場合は寝転んで実施。
視知覚（手と目の協応）			協調運動　－	2	プリント教材を使いスムーズな動きに繋げる。
視知覚（図形・位置情報）			文字バランス　－	2	プリント教材を使いスムーズな動きに繋げる。説明は言語だけでなく、視覚情報を一緒に提示。
音韻（聞く）	問題なし	促音・拗音・長音特殊音節の一部困難 構音に課題	平仮名・カタカナ全般困難	2	各プリント課題の設定　MIM評価
音韻（話す）			発語無・緘黙	2	特定の行の発音違いをチェック。舌の使い方や口周りの動きを確認し、風船ふくらまし、吹き流し笛、わたがし（飴）なめ等、口や舌を使う取り組みを実施
読む	問題なし	遂次読み	文字を読めない	2	MIMをベースに音韻練習、プリント課題に取り組む
書く		文字を思い出せないことがある	文字を書けない	2	単語（絵含む）フラッシュカードや単語つくりで、音と形をマッチングしていく
漢字	問題なし 学年相応	読めるが書けない	読めず、書けない	2	認知特性に応じた覚え方を提案。継次処理：音に変換しながら書く、生活場面でイメージしやすい物に結び付けて説明。　同時処理：編やつくり、なりたちの形をセットにする等の取組み。書き取り練習は3回程度。
計算		桁間違い等、ミスが目立つ(九九が出来ない※3年生	繰り上がり、繰り下がりの計算が困難※3年生以	2	認知特性に合わせた計算を用いる。問題の見せ方の工夫や、フレッシュ数字、フラッシュ計算の実施等
文脈理解		心の理論通過	心の理論不通過	2	都度のアセスメントで課題設定

アセスメントが支援のスタート

本人の認知特性に合った学び方が出来るよう、アセスメント

見立て⇒仕立て　支援設定、支援技術の向上が必要

➡**誰でも同じ水準の見立て、仕立てが出来ることが目標**

◇アセスメントシートの活用

◇オリジナルシートの作成（4月作成済み）

◇系統立てた教材の設定（一部準備済み）

◇支援時間を使って具体的な教示

◇研修の実施　5月、6月事業所内研修の実施

（ワーキングメモリ学習会4月実施済み）

◇ロープレ等、学びの工夫⇒事業所内研修の組み立てで工夫

	計算	数量 方程式・文章題	表とグラフ	図形
6年	分数×整数・分数÷整数の計算	文字と式	比と比の値	対称な図形
	分数同士のかけ算			円の面積
		単位とメートル法		拡大図と縮図
	分数同士のわり算	順列・組み合わせ	比例と反比例	角柱と円柱の体積
		資料の調べ方		およその面積や体積
5年	整数と少数	平均	棒グラフ 円グラフ	内角の和
	少数同士のかけ算、わり算	単位量あたりの大きさ		平行四辺形・三角形の面積
	分数と少数の変換	割合と百分率・歩合		色々な四角形の面積
	偶数と奇数・倍数と約数			合同な図形
	約分と通分	道のり・速さ・時間	比例	正多角形と円周の長さ
	分数の足し算・ひき算（異分母）			見取り図・展開図
		時間の計算（分数）		直方体と立方体の体積
4年	大きな数の計算・概数と見積もり		折れ線グラフ	角度
	わり算の筆算			辺や面の垂直と平行
	小数のたし算・ひき算（第二位）		整理のしかた	面積・大きな面積
	小数×整数・小数÷整数の計算			いろいろな四角形 （台形・平行四辺形・ひし型）
	帯分数と仮分数		変わり方	
	計算の決まりとくふう			直方体と立方体
3年	大きな数（1億までの数）	長さ	表と棒グラフ	二等辺三角形と正三角形
	3ケタ・4ケタのたし算・ひき算			
	かけ算のきまり			
	かけ算の筆算	重さ （g・kg・t）		
	わり算			
	小数	時計の計算（整数）		円と球
	小数のたし算・ひき算（第一位）			
	分数のたし算・ひき算（同分母）	□を使った式（文章題）		
	暗算			
2年	4ケタまでの数	長さ （mm・cm・m）	表とグラフ	長方形と正方形
	たし算の筆算			
	ひき算の筆算	かさ （ℓ・dℓ・mℓ）		
	かけ算（九九）			はこの形
	計算のくふう（たし算・ひき算）	時刻と時間		
	分数	□を使った式（表し方）		
1年	100までの数	長さの比較		三角形と四角形の理解
	たし算			
	ひき算	時計の見方		面積の比較
	繰り上がり・繰り下がり			体積の比較

児童発達支援

保育園、幼稚園との並行利用（基本）　　登録　6名

水曜：3名　＋　1名（個別支援）
金曜：2名

放課後等デイサービスとの多機能定員10名に達している
金曜日2名は年長児のため、次年度に向けて相談員に働きかけ

フォーマル、インフォーマルアセスメントの実施

⇒個々の発達に合った支援の実施

フォーマルアセスメント

◇DESC乳幼児社会的認知発達チェック

◇DENVER II

◇S-M社会能力検査

インフォーマルアセスメント

私たちが見る視点

◇各感覚の発達、感覚の統合レベル

◇目と手の協応

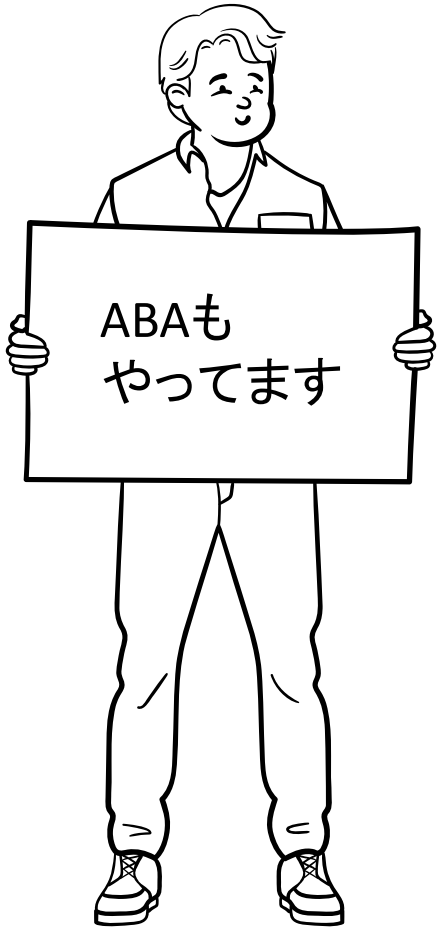
◇社会的コミュニケーションの発達

⇒それに追随した遊びの発達

◇認知、理解の仕方

◇発達の過程⇒発達の理解、知識

◆行動を見る　⇒適切な行動観察



①アセスメントが支援のスタート　スタッフの育成

◇支援時間を使って具体的な教示

◇研修の実施

◇ロープレ等、学びの工夫

②発達支援の**専門家**として

◇アセスメントに基づく適切な発達支援➡高い知識、スキル

◇ご家族からの相談➡信頼性

◇地域への働きかけ（共生社会に向けて）➡社会的意義

③評価としての記録

◇SOAPに基づき、記録の記載

◇支援のPDCAサイクル　記録の精度を上げる

ご家族と一緒に成長を喜び合えるよう

◇『ふれあいペアレントプログラム』
　指導者養成研修修了者　2名
　プログラム実施可能指導者として登録済
（ふれあいペアレントプログラム推進研究会）

◇法人外での実施についても計画していきたい
　⇒アドバイザー契約先の事業所　等

保育所等訪問支援

◇ぐりーんの利用児童を対象

◇契約児童数　4名

保育園等で、本人が困っていること等の改善をベースに、

①ぐりーんでアセスメント、実践、評価

②評価を基に、園で般化できそうなやり方の検討

③園に提案、実施

利用モデル

面談	ご希望の支援内容や、お子さんの様子をお話しください ※１　利用にあたっては受給者証の発行が必要です
事前訪問	訪問先（保育園等）に訪問し、園やクラス、集団環境、お子さんの様子等、アセスメントを行います
契約	ぐりーんと利用契約を結びます。 契約と同時に、保育所等訪問支援計画の内容をご確認頂きます
訪問調整	訪問先と支援目標、支援の方向性について共有し、 訪問日程を調整します
初回訪問	訪問支援員・児童発達支援管理責任者が訪問します 目標・支援計画に基づき、お子さん、集団等の様子を確認しながら、必要なサポートを行います 支援後、先生等と振り返りを行います
2回目	訪問支援員が訪問し、前回の実施報告書を基に、支援の再調整や継続することを確認し、実施します 支援後、先生等と振り返りを行います
3回目	訪問回数は目標等により個別に設定していきます

※１　受給者証についてご不明な方は面談時ご説明させていただきます

社会福祉法人わたぼうし
保育所等訪問支援事業所　ぐりーん
住所　愛知県半田市有楽町１－１１－６
電話　0569-77-3313・FAX　0569-26-4554

お問い合わせの際は
保育所等訪問支援について、とご連絡ください

ぐりーん
保育所等訪問支援

全ての子どもに
育ち、学び、安心して過ごせる時間を

1. 子どもの中で育ちあう
2. 本人に合った学びが出来る
3. 過ごしやすい環境がある

保育所等訪問支援とは？

ぐりーん保育所等訪問支援は

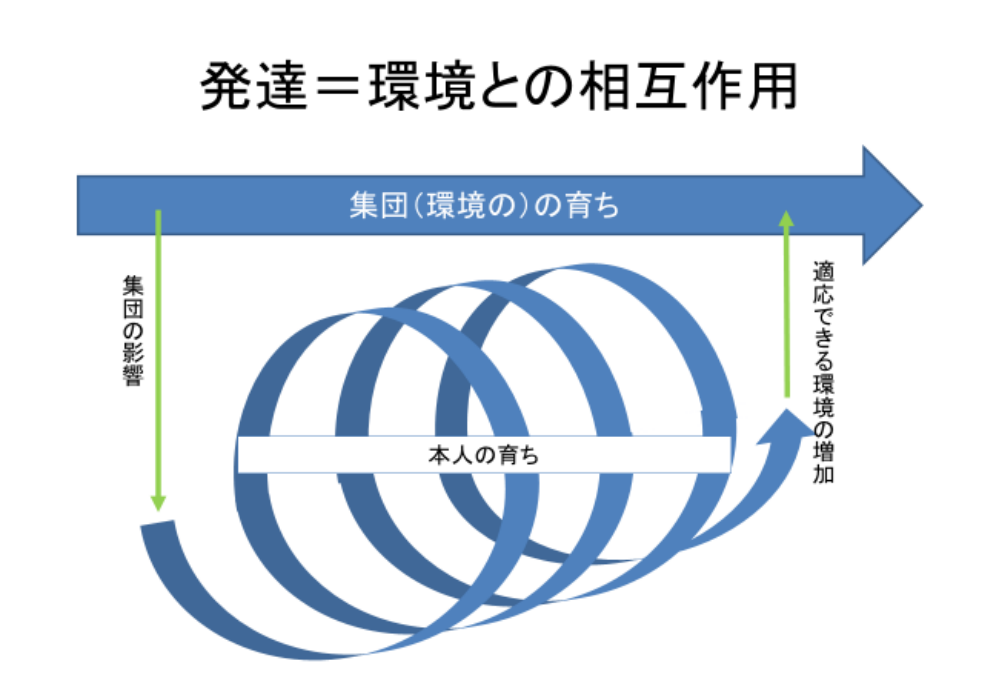
保育園や小学校等、お子さんが集団生活を送る場に訪問支援員が訪問し、お子さんが困っていることや頑張れている事、もっとこうなると良いな、という思いを一緒に見つけていきます。

お子さんがどんな工夫で「できる」ようになるか、だけでなく、環境（物理的な環境・子ども集団等）にもアプローチし、過ごしやすい環境・時間作りを目指します。

訪問するのは
・作業療法士
・臨床発達心理士
・社会福祉士　等
お子さんの育ちや、発達の専門知識を持った職員が訪問します

ぐりーん保育所等訪支援の目指すもの

一人一人に合った工夫と



整えられた環境